

平成22年度「授業力向上プロジェクト事業研究学校」

「自ら考え判断し、生き生きと表現する児童の育成

～ 友達とともに学び合い、考えを深め合う社会科学習 ～」

宇都宮市立西小学校

1 研究の目的

本校では、平成19年度から基礎・基本を身につけ、「できる・わかる・つかえる」楽しさを味わう算数の授業研究を行ってきた。その結果、学習内容の基礎・基本の定着が図られ、課題解決に向けて児童が主体的・意欲的に取り組めるようになってきている。

しかし、資料の読み取りや事象の意味を解釈・説明する力に能力差が大きく、自らの考えの表現や友達と学び合い深め合う能力が不十分など課題も残った。

本校の教育目標は、「豊かな創造力をもち、思いやりのある心情、たくましい気力と体力自主的精神に満ちた実践力のある児童を育成する。」であり、今回の学習指導要領の改訂により、各教科において、思考力、判断力、表現力をはぐくむ言語活動を充実させていくことが重視されている。

これらのことから、本年度は研究課題を「自ら考え判断し、生き生きと表現する児童の育成～友達とともに学び合い、考えを深め合う社会科学習～」とした。研究を通して、算数の研究で培ったよさを伸ばし、問題解決的な学習や課題解決のための言語活動を充実させ、友達との関わりの中で思考力・判断力・表現力を育成していきたいと考えた。

また、社会科における改訂の主旨を踏まえ、本研究では習得すべき知識や概念を明らかにし、課題解決の過程において、社会的事象の意味や事象間の関連を自分の言葉で説明する言語活動を導入することによって、社会的事象を多面的・多角的に考え、生き生きと表現する資質や能力の育成を目指していきたい。

2 研究内容

- ① 社会的事象を自分との関わりの中で捉える教材の開発
- ② 切実感を高める学習問題・学習過程の工夫
- ③ とともに学び合いながら考えを深め合う言語活動の工夫

(1) 社会的事象を自分との関わりの中で捉える教材の開発

ア 地域の素材を生かした教材の開発

- ・ 地域素材の具体的事例

- ① 公共施設…宇都宮市役所、上下水道局、栃木県庁、栃木県立文書館、宇都宮地方裁判所等
- ② 商店街…ユニオン通り、オリオン通り、もみじ通り等
- ③ 古くから残る建造物、史跡…松が峰教会、日光街道、奥州街道、蒲生君平関連場所
宇都宮城址公園、二荒山神社、戸田氏の墓所等

- ④ 祭り…天王祭、菊水祭等

イ 地域の方々と連携した教材の開発

- ・ 地域人材の具体的事例

商店街の人々、昔調べボランティア、東武交番、民生委員、地域包括センター職員、戦争体験者 等

ウ 社会の中で児童が直面する問題を切り口にして考えること

- ・ 環境、福祉、人権、国際理解、法やきまり、災害・防災、金融・経済等の今日的課題

(2) 切実感を高める学習問題・学習過程の工夫

ア 目標・内容の分析を行うための単元構造図・単元の学習計画の作成

- ・ 小単元を通して児童にとらえさせたいことを明らかにするために、学習指導要領の目標や内容、教科書、児童の思いや疑問、発問、資料を分析し、単元構造図や単元の学習計画に表す

【小単元構造図】

【小単元の学習計画】

- | | |
|---------------------|---------------|
| ①この単元で総合的にとらえさせたいこと | ①児童の思いや疑問 |
| ②まとめて分かること | ②主な発問と資料 |
| ③調べて分かること | ③本時で獲得する知識・概念 |

イ 切実感を高める学習問題づくり

- ・ 学習前の児童の知識や経験をもとに、教師が「ゆさぶり」資料を提示する
- ・ 発問を単元の学習過程に位置づけ、展開の中で構造的に位置付ける
 - ①事実認識の問い…「When(いつ), Where(どこで), Who(誰が), What(何を), How(どのように)」型の発問
 - ②関係把握の問い…「Why(なぜ), How(どのように)」型の発問
 - ③価値判断の問い…「Which(どちらを), How(どのように)」型の発問

ウ 自分の問題として追究し続けていくための学習過程の設定

- ・ 学習過程「つかむ」「調べる・ふかめる」「いかす」の設定
 - ①つかむ…問題の把握、学習計画の設定（予想し、調べる内容・方法を考える）
 - ②調べる・ふかめる…問題の追究・解決
 - ③いかす…追究過程で明らかになった社会的事象を、自分の生活と関連付ける

(3) ともに学び合いながら考えを深め合う言語活動の工夫

ア 比較・関連・総合しながら再構成する（表現しながら考える）学習

- ・ 関係図を使って、事実を相互に関連付けながら考える
- ・ 考え言葉を使って、社会的思考を働かせながら考える
 - ①～ので、だから…因果関係の把握
 - ②～のために…目的と手段の関係把握
 - ③つまり、まとめると…帰納的・抽象的に把握
 - ④たとえば…例示、演繹的・具体的に把握

以上の4つの社会的思考を働かせる言葉に、類似や相違を示す言葉、認め合ううれしい姿、認め合うための言葉を付け加え、教室の前面に掲示する

【教室前面掲げる掲示資料】

(友達と) 考える	認め合う うれしい姿	認め合う
同じで、つけたしで	目を見る	それいいね。
反対で、ちがって、でも	うなずく	なるほどね。
～ので ～だから	あいづちをうつ	よかったね。
～のために	はく手する	がんばったね。
もし	反応する（感想，質問）	すごいね。
たとえば		同じだよ。
つまり、まとめると		よくわかったよ。
		ためになったよ。
		よく考えたね。

イ 伝え合うことによりお互いの考えを深めていく（考えたことを表現する）学習

- ・ 観点を明確にした話し合い活動
- ・ 対話における教師のコーディネート
- ・ 表明する相手に合ったわかりやすくポイントを押さえたまとめ方
- ・ ポスター・新聞・レポート・手紙など表現方法の工夫と表現対象の明確化

ウ ともに学び、考えを深め合うための学習形態

- ・ ペアで・グループで・全体で話し合う、座席配置の工夫

(5) 授業の実際

月日	学年	◇小単元名 ・ 題 目	研究主題との関連
7 ・ 8	五 年 二 組	◇いま、どんな自動車が求められているの ・自動車についてこれから調べたいことを考えよう	・保護者インタビューや自動車産業に従事している人の話（ビデオ資料）の導入による学習問題の設定 ・ともに学び合い、考えを深めるための場の工夫 ・自分の考えを明確に表現する短冊の活用
11 ・ 10	四 年	◇地域の発展につくした先人たち ・水作りに込められた先人たちの思いや願いを考えよう	・拡大地図や紙芝居「宝木用水物語」の活用による学習過程の工夫 ・開拓体験、もっこ運び・水運びなどの疑似体験、宝木用水取水口の見学、あわとひえの試食など事前の体験活動 ・児童の思考に役立つ掲示物の工夫 ・名主と農民に分かれ同じ立場のグループによる話し合い（考え言葉の活用）
	五 年 一 組	◇宇都宮市のお年寄りはお安心…？ ・本当に宇都宮市のお年寄りは安心か？	・学区の実態をもとにした教材の開発 ・児童の考えや学習の流れが分かる関係図 ・意図的指名や話題を焦点化する支援によるねらいに迫る話し合い活動 ・考えを深めるためのVTRの活用 ・付箋紙による振り返り
12 ・ 22	三 年	◇むかしさがしをしよう ・道具がうつりかわってきたわけを考えよう	・西みらい館の活用 ・切実感を高める学習問題（炊飯器の移り変わりの表・並べ替えクイズ） ・羽釜での炊飯体験（地域の方の協力） ・グループ活動の重視（考え言葉・認め合う言葉） ・ホワイトボードの活用
	六 年	◇ぼく・わたしの日本未来予測 ・8年後の日本の未来を予測しよう	・終戦直後と現在を比較した写真や地域の高齢者の話をもとにした学習問題の設定 ・関係図を作成し、教室壁面に掲示 ・文例（思考）パターンを使った自分の考えの表現 ・グループ編成の工夫（同じカテゴリーの意見をもとにした深め合うグループ活動） ・ホワイトボード活用によるグループのまとめ

《 5年生の授業の様子 》



▲モーターショーの写真の提示



▲モーターショーのビデオを視聴



▲学習問題の設定

《 4年生の授業の様子 》



▲掲示物の工夫

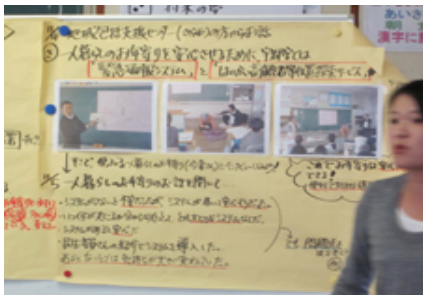


▲名主と農民に別れた話し合い



▲学習のまとめ

《 5年生の授業の様子 》



▲関係図を利用した学習の導入



▲VTRの活用



▲付箋紙を活用した振り返り

《 3年生の授業の様子 》



▲羽釜での炊飯体験



▲炊飯器の移り変わりの表を提示



▲グループの話し合い

《 6年生の授業の様子 》



▲関係図による学習内容の確認



▲ホワイトボードの活用



▲ 関連性を位置づける学習
のまとめ

3 まとめ

(1) 研究の成果

- ・指導案が整理され、予想・仮説（個の学び）から話し合い（協同の学び）、予想・仮説の見直し（個の学び）という授業展開パターンが出来上がってきた。
- ・関係図は、今までの学習の流れや話し合いの内容を明確にし、事実を相互に関連付けながら児童の考えを深めていく上で効果的であった。
- ・地域の素材や人材を生かしたり、視聴覚機器を効果的に活用したりすることで、児童の興味関心を高めることができた。
- ・体験活動を重視したことで、実感を伴いながら社会事象を深く考えさせることができた。
- ・学習過程や発問を工夫することで、児童の意欲を喚起するとともに、一人一人が自分の問題として追求しながら取り組むことができた。
- ・「考え言葉や認め合ううれしい姿」の資料を掲示し、児童への意識付けを図ったことで、ポイントを押さえた活発な話し合い活動が進められた。
- ・考える際の条件「思考パターン」を設定したことで、児童は自分の考えを拡散させず深めることができた。
- ・「学習指導だより」を発行し、地域との連携を図ることができた。

(2) 課題

- ・思考パターン「～（理由）だから～（結論・主張）だ」の定着を図っていく。
- ・児童自身が聞くこと・説明することで自分の考えが変わり、深まっていくことを実感できるような話し合いの仕方を工夫する。
- ・可視化ツール（小ホワイトボード、板書、関係図）をさらに有効に活用できるようにしていく必要がある。